

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	36	学校名	加茂高等学校 定時制
------	----	-----	------------

学校教育目標 (教育方針)	「基礎学力」と「バランスの取れた人間性」を備え、「社会に出て自立して生きていける人間」を育成する。 1 目的に向かって精一杯努力し、チャレンジする生徒 2 多文化共生社会の一員として適応できる、自律心と協調性を備えた生徒 3 集団をよりよい方向へ導く調整力や発信力を備え、進路を切り開く力を身に付けた生徒		
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かって精いっぱい努力し、チャレンジする生徒 ・多文化共生社会の一員として適応できる、自律心と協調性を備えた生徒 ・集団をよりよい方向へ導く調整力や発信力を備え、進路を切り開く力を身に付けた生徒 	
	生徒をどう育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業、チームティーチング授業、ICTの活用等とおして、学びなおし授業を丁寧に実施するとともに、漢字・日本語能力及び計算能力の定着を図りながら、生徒の特性に応じて、検定合格等に挑戦させる、きめ細かな指導の推進 ・外国人生徒の日本語支援にあたる職員やスクールカウンセラー等の相談員、外部の専門機関等による支援体制の充実を図りながら、個人懇談、保護者懇談をきめ細かく実施するとともに、学校行事や部活動の活性化を推進 ・グループ対抗校内日本語プレゼンテーション大会を通してコミュニケーション能力や発信力を育成するとともに、外部機関と連携した進路ガイダンス、企業訪問、卒業生から下級生への助言等、情報収集の機会を充実させ発達段階に合わせたキャリア教育を推進 	
	どんな生徒を待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの可能性を信じて挑戦したいという向上心を持ち、目標を見つけて継続して努力したいという意欲のある生徒 ・他者の良さを認めながら、人とつながって学校生活を送りたいと願う生徒 ・学校行事や生徒会活動、部活動に積極的に参加し、充実した学校生活を築いていこうという意欲のある生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・国語・数学を中心に基礎学力の定着が不十分である。また、授業規律について継続的な支援・指導を必要とする生徒が一定数いる。 ・JLP Tの受験者が少ない。 ・学校の進路指導の取り組みや行事について保護者への周知徹底が不十分な面がある。 ・校内での問題行動は少なくなってきたが、校外の問題や家庭での問題が原因で学校生活に支障が出る生徒が増えている。 ・部活や学校行事を生徒主体で行うことができていない。多国籍の生徒間で、日本語能力の差などが要因となりお互いが協力し行事運営することがなかなか難しい。 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	授業規律の確立と基礎学力の習得と定着	
	生徒指導	基本的な生活習慣の確立とバランスの取れた人間性の育成	
	進路指導	社会に適応できる能力の計画的な育成と進路希望の実現	
	学校経営	地域社会に開かれ、信頼される学校づくりの推進	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学習指導	①少人数授業、チームティーチング授業を実施し、学び直し授業を丁寧にを行います。	23	施策Ⅳ-23	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートや授業アンケートで該当項目について良い評価が70%を達成できたか。 ・校内漢字検定・数学基礎テストを実施し、達成度を確認する 	B	学校評価アンケートでは生徒、保護者ともに授業に関する項目で肯定的な意見が多く、理解を深める授業展開がどの教科でもできていると考える。今後も継続することで生徒の基礎・基本の定着を図っていききたい。 課題としては本校の生徒数が増加している状況の中で一人一人に対応できる時間が物理的に減少してしまうことである。	B
	②総合的な探究の時間を活用し、漢字・日本語能力や計算能力を定着させます。	23	施策Ⅳ-23				
	③全教科で授業アンケートを実施し、授業改善を推進します。	8	施策Ⅱ-8				
	④外国人児童生徒適応指導員の支援を活用し、言語面から学力向上を支援します。	22	施策Ⅳ-22				
生徒指導	①不登校の支援に対応し、安心できる学校環境、雰囲気づくりを推進するとともに、スクールカウンセラーなどの外部の専門家を活用した教育相談の更なる充実を図り、相談しやすい窓口を提供することで早期発見、早期対応を推進します。	3	施策Ⅰ-3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートや講話後のアンケートで該当項目について良い評価が70%を達成できたか。 	B	S Cによる職員研修では、不登校傾向のある生徒の事例をもとに対応スキルの向上を含めた教育相談力の向上を図った。生徒の相談内容に対応できる知識を増やすことができた。命の教育では命の尊厳や生きていることを大切にしたいという感想が多数見られ、中学生時に聞いたことがある生徒の中には今回素直に話を受け入れることができたなど心の成長の跡が見られた。懇談については計画されたものに加えて、日頃から生徒の話を聞き生徒理解に努めている。また、生徒会活動では役員役割を明確にすることで仕事の分担がスムーズになった。 課題としては学校評価アンケートで、「わからない」と答えた割合が昨年よりは少なくなったが、項目によってはまだ1割程度あるので、より理解してもらえるように努めていきたい。	B
	②心身の健康管理を自ら適切に行うことができるよう、保健体育の授業に加え、夏季休業前の外部機関との連携による保健指導を行います。	19	施策Ⅲ-19				
	③個人懇談と保護者懇談を年間計6回実施し、生徒理解に努めます。	3	施策Ⅰ-3				
	④学校行事や部活動を通して、協調性や公共心を育成します。コミュニケーション能力や自己表現力の育成と自己肯定感や自己有用感の育成	1	施策Ⅰ-1				
進路指導	①自己の適性を見極め、適切な進路実現を達成できるよう、各学年の意識段階に合わせたキャリア教育を実施します。	13	施策Ⅱ-13	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートで該当項目について良い評価が70%を達成できたか。 ・検定受験者数が増加したか、また合格者数が増加したか。 	B	今年度掲げた4つの目標の達成に必要な具体的な取組について、生徒・保護者両方を対象とした学校評価アンケートの達成度の指標で4つとも全ての項目に関連する項目において70%の肯定的な意見を得ることができた。 進路ガイダンスでは生徒からわかりやすく勉強になった、興味を新たに持つことができたなどの感想が寄せられ、職員からは講師の説明がわかりやすく、ワークシートの生徒の反応も良かったなど講師との事前の準備を綿密に行ったことで生徒にとってよい機会を持つことができた。 課題としては、卒業予定者と語る会は生徒たちにとって有意義であったが、さらに充実させるために懇談との連携を考えていきたい。	B
	②健全な職業観を育成するため、外部機関と連携した進路ガイダンス、企業訪問、卒業生や進路決定者から下級生への助言等の進路行事を実施している。	13	施策Ⅱ-13				
	③グループ対抗の校内日本語プレゼンテーション大会を実施し、調整力や発信力を養います。	22	施策Ⅳ-22				
	④外国籍生徒の日本語検定合格を支援し、検定や資格の取得を進学や就職に生かします。	22	施策Ⅳ-22				
学校経営	①地域社会にホームページなどを活用して情報発信します。	20	施策Ⅳ-20	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートで該当項目について良い評価が70%を達成できたか。 ・検定受験者数が増加したか、また合格者数が増加したか。 ・学校公開日、学校説明会の参加者が増加したか。 ・職員の月残業時間は45時間以内であったか。 	B	アンケート結果から情報発信によって本校の様子を保護者に理解していただけたと考える。また一斉配信メールの活用は必要に応じて行うので適切に活用された。説明会等では本校の保護者が対象ではない学校評価アンケート(保護者)の数値としては現れてこなかったが、学校説明会など様々な機会を用いて校内プレゼンテーションなどの学校行事や学校の様子を伝えることはできた。職員連絡会での情報共有や外部機関との連携など密に行うことで生徒への対応を迅速に行うことができた。 課題としてはH P等の情報発信の項目では肯定的な意見が生徒は微増、保護者は微減しており、さらなるH Pの充実、きめ細やかな家庭との連携が必要であると感じている。	B
	②保護者との連携を強化するために、振興会総会や保護者懇談会の実施に加えて、多言語での一斉配信メール(すぐる)配信や、年3回の加茂高だよりの発行による情報発信をします。	22	施策Ⅳ-22				
	③校内日本語プレゼンテーション大会などを学校説明会やH Pを通じて紹介し、地域の方々に学校の様子を知る機会を増やすことで、本校教育活動の理解とP Rにつなげます。	20	施策Ⅳ-20				
	④積極的な職員間連携を通して、職務の効率化を図ります。	27	施策Ⅳ-27				

来年度に向けての改善方策等

- ・引き続き授業改善を行っていくとともに、情報発信の充実を図る。
- ・職員連絡会での生徒情報交換を充実させることで、支援を必要とする生徒や問題行動等に対する全職員の情報共有を図り、組織的対応を充実させる。
- ・今年度に引き続きホームページの更新頻度を上げて進路行事の予定を公開していく。
- ・行事における活動内容を見直し、生徒参加型の項目を増やすことで生徒の活躍できる場を提供していきたい。
- ・部活動紹介の中で各部の魅力発信し、仮入部の体験を通して新入生を中心に呼びかけ、加入する生徒数を増やしていきたい。

学校関係者評価

実施日：令和7年2月6日

- ・生徒の状況を見ると、まさに多文化共生を通して生徒どうしが学びあえる行事や部活動などの活動がある。
- ・部活動ではバスケットボール部、バドミントン部が全国大会に出場し、短い時間でも充実した時間を過ごしている。
- ・地域と連携することは大切と思われるので、今までのように行事等を通じて連携できるとよい。